

1 次の文章 A、B を読んで、下記の問 1 ～ 問 4 に答えよ。

A 日本列島における土器の出現は約 1 万 6000 年前といわれている。この時期は地質学で **ア** と呼ばれ、氷河時代に相当した。縄文時代の土器は深鉢が中心であったが、弥生時代の土器では煮炊き用の甕、穀物などを貯蔵した壺、高坏 ^(a) といった組み合わせが一般的となった。古墳時代には弥生土器の系譜を引く **イ** ^(b) という土器が用いられたが、5 世紀には朝鮮半島から伝えられた技術で 新たな特徴 ^(b) をもった土器も作られるようになった。

B 縄文時代になると、人々はテント式の小屋や洞窟に住んで絶えず移動する生活から、地面を掘りくぼめ、柱を立てて屋根を葺いた **ウ** と呼ばれる家に住む 定住生活 ^(c) を送るようになった。水稻耕作が伝えられると、収穫物をおさめるための **エ** という建物が集落にみられるようになった。8 世紀には **ウ** にかわって **オ** という平地建物が西日本から普及した。

問 1 空欄 **ア** ～ **オ** にもっとも適当な語句を入れよ。

問 2 下線部(a)の「高坏」の用途を簡潔に記せ。

問 3 下線部(b)の「新たな特徴」を 10 字以内で述べよ。

問 4 下線部(c)の「定住生活」が可能になった理由を 40 字以内で述べよ。

2 は次ページ

2

次の史料A～Cを読んで、下記の問1～問9に答えよ。なお、史料は、わかりやすくするため、文字・字体などを一部変えてある。

A 蒙古人対馬・^(岐)壹伎に襲来し、既に合戦を致すの由、①覚恵注申するところなり。早く来たる二十日以前に安芸に下向し、かの凶徒寄せ来たらば、国中の地頭御家人ならびに本所・領家一円地の住人等^(a)を催し、②禦戦せしむべし。更に緩急あるべからざるの状、仰せによって執達くだんの如し。

文永十一年十一月一日 武蔵守 在判

^(b)相模守 在判

武田五郎次郎殿

(注) ①覚恵は少弐資能の法名、②禦戦は防戦の意

B (文明十七年十二月十一日)今日、山城国人集会す。上は六十歳、下は十五六歳と云々。同じく一国中の土民等群集す。今度両陣^(c)の時宜を申し定めんがための故と云々。しかるべきか。但しまた下極上^(d)の至りなり。両陣^(c)の返事問答の様いかん、未だ聞かず。(文明十八年二月十三日)今日、山城国人、平等院^(e)に於いて会合す。国中の掟法なお以てこれを定むべしと云々。およそ神妙。但し①興成せしめば、天下のため然るべからざる事か。

(注) ①興成とは勢い盛んになること

C 一つ、錢をえらぶ事。

段錢の事は、往古の例たる上は、えらぶべき事、勿論たりといえども、①地下の仁^(f)②宥免の儀として、百文に、永楽・宣徳^(g)の間二十文あて加えて収納すべきなり。

(注) ①地下の仁は地下人、領民のこと、②宥免は寛大にゆるすこと

- 問 1 史料Aは、鎌倉幕府が安芸国の守護武田信時に出した文書の写しである。
この前後、幕府はモンゴル襲来に備え、博多湾岸などの要地に御家人らを動員し警備にあたらせた。このつとめを何というか、答えよ。
- 問 2 史料Aの下線部(a)の「本所・領家一円地の住人」とはどのような存在であると考えられるか、「地頭御家人」と並記されている点に着目し、30字以内で述べよ。
- 問 3 史料Aの下線部(b)の相模守は当時の執権である。人名を答えよ。
- 問 4 史料Bは、『大乘院寺社雑事記』の山城の国一揆にかかわる1485年と1486年の記事である。山城の国一揆に撤退などを要求された下線部(c)の「両陣」の大将とはそれぞれ誰か、人名を答えよ。
- 問 5 史料Bの下線部(d)の「下極上(下剋上)」とはこの時代の特徴としてみられた現象である。どのような現象を指すのか、山城の国一揆以外の事例を一つあげ、50字以内で説明せよ。
- 問 6 史料Bの下線部(e)の「平等院」に1053年に阿弥陀堂を建立したのは誰か、人名を答えよ。
- 問 7 史料Cは、1485年に周防の守護大内氏が出した掟書の一部である。下線部(f)の「段銭」とは何か、15字以内で答えよ。
- 問 8 史料Cの下線部(g)の「永楽・宣徳」とは永楽通宝・宣徳通宝のことである。これらの銭が造られた国の王朝名を答えよ。
- 問 9 史料Cの撰銭令で領民にゆるされたことは何か、30字以内で述べよ。但し、2桁以上のアラビア数字は1字分として1マスにまとめて記すこと。

- 3 近世における男性と女性の地位や分業について、次の語句をすべて用いて 400 字以内で述べよ。なお、語句を用いる順序はこの通りでなくともよい。また、語句は何度用いてもよい。ただし、使用した箇所には必ず下線を引くこと。

家 長	『女大学』	中山みき
美人画	機織り	和子(東福門院)

4 は次ページ

4

20 世紀日本の経済発展と生活様式の変化に関する次の文章 A、B を読んで、
下記の問 1 ～ 問 5 に答えよ。

A 第一次世界大戦に伴う好景気は、日本の工業化と都市化を推し進めた。これ
(a)に伴い大都市では、新中間層が形成され、教師やタイピスト、電話交換手など
(b)の仕事を持つ **ア** と呼ばれる女性も増加した。マスメディアも発達し、
新聞や雑誌が発行部数を大きくのばしたほか、ラジオや **イ** などの新たな
メディアも人々の人気を集めた。

B 安保改定をめぐり国民の強い批判を浴びた岸信介内閣に代わって成立した池
(c)田勇人内閣は、 **ウ** 計画をかけた、高度経済成長を促進する経済政策を
展開した。経済成長に伴い、電気洗濯機や電気冷蔵庫、自動車などの
エ の普及が進み、生活様式は大きく変化した。またこの時期に太平洋
ベルト地帯を中心にみられた工業化の進展は、地方農村の産業や人口のあり方
(d)にも大きな変化を及ぼした。

問 1 空欄 **ア** ～ **エ** にもっとも適当な語句を入れよ。

問 2 下線部(a)について、この戦争が日本に好景気をもたらした理由について、
アジア市場やアメリカとの関係に触れながら 60 字以内で答えよ。

問 3 下線部(b)について、どのような人々を指すか、20 字以内で具体的に説明
せよ。

問 4 下線部(c)について、新たに調印された日米相互協力及び安全保障条約(新
安保条約)ではどのような内容が定められたか、40 字以内で答えよ。

問 5 下線部(d)について、この時期の地方農村では、産業や人口のあり方にどの
ような変化が生じたか、50 字以内で答えよ。